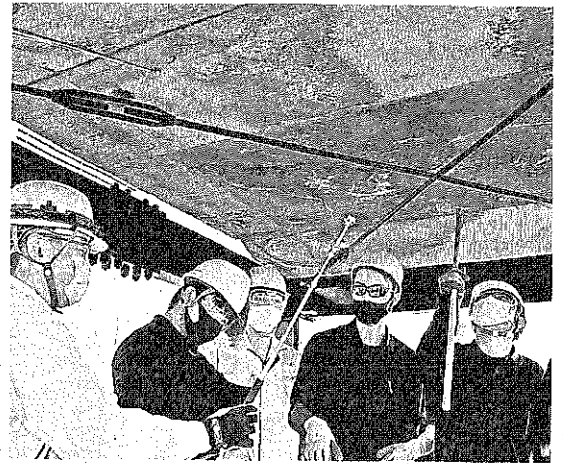


道路点検の手法 高専生44人理解

鯖江、橋の打音など確認



打音でコンクリート構造物の劣化具合を確認する学生＝19日、鯖江市の福井高専

県内の道路を管理する自治体や高速道路会社などで構成する「県道路メンテナンス会議」は19日、老朽化が進む橋や道路の点検についての講習会を鯖江市の福井高

専で開いた。環境都市工学科の5年生44人が、コンクリート構造物の老朽化の特徴や点検方法を実践的に学んだ。学生に交通インフラの老朽化への関心を高めてもらおうと毎年、大学生や高専生を対象に開いている。前半の座学では県コンクリート診断士会の山川博樹会長らが講師を務め、県内は海岸線の塩害や山間部の凍害などでコンクリートの劣化が進みやすいことを説明した。引き続き、同校が教材として所有している、実際に使われていた橋の一部を利

用し実習を行った。ハンマーでたたく音で診断する打音検査では、異常がなければ「キンキン」と高音が鳴ったが、空洞がある部分は鈍い音だった。超音波測定器を使った実習では、空洞があると伝播速度が遅いことを実感した。

野村耕佑さん(20)は「高度成長期に造られ、50年以上過ぎた構造物が増えている中、点検の重要性は増している。打音検査は実際に劣化具合で鳴る音が違い、理解が深まった」と話していた。

(土生仁巳)